

浜の活力再生プラン
令和 6 年～10 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組 織 名	釧路地域水産業再生委員会
代 表 者 名	金井 関一（釧路機船漁業協同組合 代表理事組合長）
再生委員会の構成員	釧路機船漁業協同組合、ミツウロコ食品㈱、釧路市
オブザーバー	北海道釧路総合振興局
対象となる地域の範囲及び漁業の種類	・地域の範囲：北海道釧路市（釧路機船漁業協同組合の範囲） ・対象漁業種類：沖合底びき網漁業 ・対象となる正組合数：6 経営体 16 名 （令和5年11月11日 現在）

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は、釧路沖に寒流と暖流が交わる好漁場が形成され、世界の三大漁場ともいわれる豊かな海を擁し、昭和44年から平成3年まで（昭和53年を除く）は連続で水揚げ日本一となり、特に昭和58年から8年間はイワシの到来もあって100万トン規模まで拡大し、わが国最大の漁業基地としての地位を確保してきた。当地域水産業再生委員会の構成員である釧路機船漁業協同組合に所属する沖合底びき網漁業は、地域における原魚供給元として、水産加工関連業界等の発展にも大きく貢献するなど地域の基幹産業として一翼を担っている。

しかし、昭和52年に200海里専管水域の設定をはじめ、その後の国際漁業規制の強化に伴い、さけ・ます漁船や北転船の相次ぐ減船などにより遠洋・沖合漁業は軒並み衰退し、昭和52年当時104隻あった所属船は、現在、沖合底びき網漁船9隻のみとなっている。

近年は、漁獲の主体となるスケトウダラは漁獲量は低調であったものの、すり身市況の好転等により魚価は上昇した。スケトウダラ以外の魚種についても、漁獲量は低調だが、一般的に魚価の高値傾向は続いている。

また、2019年から国内外で続く新型コロナウイルス感染症対策に伴う景気の減退に加え、2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻による世界的な金融引き締め策等をうけ円安及び燃油・漁業資材等の高騰に伴う漁撈経費の上昇が続き、沖合漁業経営を取り巻く環境は悪化し漁業生産コスト高が顕著にあらわれ、地域水産業を取り巻く環境は依然厳しい状況にある。

釧路機船漁業協同組合に所属する沖合底びき網漁船は9隻あり、内訳は組合自営船2隻、組合員所有船7隻となっている。組合員所有船のうち3隻は「平成22年北海道機船漁業釧路地区プロジェクト改革計画」による新造船で、省エネ、省コスト化、付加価値向上に対する取組みを積極的に実施している。

平成3年から資源増大対策としてハタハタの種苗生産を開始し、現在まで842万尾の人工授精を行い、ふ化放流数は632万尾となっており、継続して資源増大事業に取り組んでいる。

平成11年からの韓国輸出向け生鮮魚出荷は、仕向地韓国の新型コロナウイルス感染症対策による輸出環境の悪化、又は国内の高気温時期(9月～10月)の対策として出荷数量を抑制した為、出荷量は減少したものの、根強い購買層に支えられ販売価格は高値推移している。

(2) その他の関連する現状等

釧路市は、人口約158,000人の釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園をはじめとする自然に恵まれた街であり、東北北海道の中核都市として社会、経済、文化の中心的な機能を担っている。

主な産業は国内有数の水揚げ量を誇る水産業をはじめとし、酪農を主力とする豊かな農業生産、豊富な森林資源を有する林業があり、日本の食料基地といえる地域であるが、各産業とも価格が安価な輸入物の増加又はコスト上昇により厳しい経営環境に加え、少子高齢化と若年層の地元離れが進み、後継者不足による担い手の確保が課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

当地域の沖合底びき網漁業は、将来にわたって、水産加工関連業界をはじめとする地域経済・雇用の安定に重要な役割を果たしていくために、漁業経営の維持安定を図っていく必要があり、自然環境の変化による水揚げの変動が予想される中、これに対応した生産・流通構造の形成により低コスト・付加価値向上を図ることが必要となっている。

この様な現状とこれまでの取組を踏まえ、活力ある水産業のあるべき姿を目指すため、前期に引き続き以下の取り組みを行い、漁業所得の向上による漁業経営の安定と地域の活性化を目指す。

○漁業収入の向上○

- ・最新保冷技術の活用や流通改善、衛生管理の向上に取り組み、スケトウダラ高鮮度保持と衛生管理強化による他地区との差別化を図り、魚価の高値安定化に取り組む。
- ・発泡詰めした生鮮スケトウダラの韓国輸出については、現在の取引価格を維持するとともに出荷数量の増加に取り組む。
- ・発泡詰めした生鮮スケトウダラ以外の魚種に関しても、下氷等をした魚箱へ詰め鮮度保持に努めるなど、魚価の単価向上に取り組む。
- ・低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。
- ・水産資源の維持及び資源増大対策として、ハタハタのふ化放流を継続する。

○漁業経費の削減○

- ・共同操業による漁場情報の共有化を図り、漁場探索、漁場利用の効率化に努め、漁業経費の削減を図る。
- ・減速航行及び船底清掃による省燃油活動を実施する。
- ・船体・機関整備の費用軽減と検査の期間延長による経費削減を図る。

○漁村の活性化○

- ・スケトウダラ、マダラなど地域資源を有効活用するため、関係者と連携し食育や地産地消活動に取り組む。また、加工品の試作を増やすとともに各種商品PR活動に取り組む。

(3) 資源管理に係る取組

北海道資源管理指針に基づいて組合で資源管理計画を策定。沿岸漁業との漁業調整の為の操業協定を遵守。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和 6 年度） 所得向上率（基準年比） 3.3 %

漁業収入向上のための取組	1. 釧路産スケトウダラの高品質化を図るべく、海水電解殺菌装置による、船体、漁網、魚箱等を清浄し衛生管理の向上を図る。 2. 漁獲物の品質の向上を図るとともに、漁獲後の酸化を防ぎ長期保存が可能となるシャーベット状の海水氷（シルク氷）を活用した鮮度保持対策を実施する。 3. 低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。 4. 全船規格統一を定めた韓国輸出向け『釧路沖底産スケトウダラ生鮮魚発泡』の輸出強化。 5. 所属船のうち2隻のオッタートロール漁船は、プール制の導入や共同操業による漁場の分散操業を実施しており、資源量に応じた計画的な操業により、大漁時の魚価の値崩れを防ぐとともに、水産資源を持続的に利用できる体制を継続する。
漁業コスト削減のための取組	1. 沖底船9隻は、漁場までの減速航行やこれまで各船で行っていた漁場探索、データ収集、分析を共同で行うこととする。 2. 漁業者は、船体メンテナンスなどを行う造船所・鉄工所を一社に集約し、機関故障などに備えた機関予備品を共同購入するなど船体維持費の削減にも努めている。 3. 中間検査・定期検査の指定期間の分散化計画を北海道運輸局釧路運輸支局に提出することにより、経費の支出を平準化し経営の安定化に取り組んでいる。 3期目も、2期目の取り組みを継続し経費削減の取り組みを行う。
漁村の活性化のための取組	1. 水揚げの主体となるスケトウダラを、使用した料理を飲食店の協力のもと、利用者へ提供するほか、釧路市と連携し加工品の試作にも取り組む。 2. 各種催事への参加や都市部での販売促進を行うほか、惣菜魚やスケトウダラの試食・調理方法をPRし、スケトウダラ、タラなど地域資源を有効活用した消費拡大に取り組む。 3. 平成28年度に整備した漁協加工場にて「魚のさばき方や食べ方を教える調理施設」を常設し、「加工品づくり体験」を通じ、広く市民に、新鮮で美味しい釧路産の魚に興味や関心を持ってもらうよう食育や地産地消の取組みを広げる。

	4. 「釧路市地域雇用創造協議会」が進める、地域資源を活用した商品開発事業に参画し、スケトウダラ専用の加工機械を導入し、消費者のニーズに応じた新たな加工品の試作に取り組み、魚を獲るだけの漁業から加工・販売も一貫して取組むことで消費拡大や付加価値の向上を図る。 5. 将来構想として平成22年に釧路市が策定した「釧路港漁港区（副港）の将来ビジョン」では、漁業の生産活動が観光資源として注目されており、魚の陸揚げや競りの見学などによる「水産観光」という新分野にも参画を目指し、構想実現に向けて釧路市と連携し地域全体の活性化に貢献していく。
活用する支援措置等	・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 浜の活力再生・成長促進交付金（国）

2 年 目（令和 7 年度） 所得向上率（基準年比） 6.5 %

漁業収入向上の ための取組	1. 釧路産スケトウダラの高品質化を図るべく、海水電解殺菌装置による、船体、漁網、魚箱等を清浄し衛生管理の向上を図る。 2. 漁獲物の品質の向上を図るとともに、漁獲後の酸化を防ぎ長期保存が可能となるシャーベット状の海水氷（シルク氷）を活用した鮮度保持対策を実施する。 3. 低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。 4. 全船規格統一を定めた韓国輸出向け『釧路沖底産スケトウダラ生鮮魚発泡』の輸出強化。 5. 所属船のうち2隻のオッタートロール漁船は、プール制の導入や共同操業による漁場の分散操業を実施しており、資源量に応じた計画的な操業により、大漁時の魚価の値崩れを防ぐとともに、水産資源を持続的に利用できる体制を継続する。
漁業コスト削減 のための取組	1. 沖底船9隻は、漁場までの減速航行やこれまで各船で行っていた漁場探索、データ収集、分析を共同で行うこととする。 2. 漁業者は、船体メンテナンスなどを行う造船所・鉄工所を一社に集約し、機関故障などに備えた機関予備品を共同購入するなど船体維持費の削減にも努めている。 3. 中間検査・定期検査の指定期間の分散化計画を北海道運輸局釧路運輸支局に提出することにより、経費の支出を平準化し経営の安定化に取り組んでいる。 3期目も、2期目の取り組みを継続し経費削減の取り組みを行う。
漁村の活性化の ための取組	1. 水揚げの主体となるスケトウダラを、使用した料理を飲食店の協力のもと、利用者へ提供するほか、釧路市と連携し加工品の試作にも取り組む。 2. 各種催事への参加や都市部での販売促進を行うほか、惣菜魚やスケトウダラの試食・調理方法をPRし、スケトウダラ、タラなど地域資源を有効活用した消費拡大に取り組む。 3. 平成28年度に整備した漁協加工場にて「魚のさばき方や食べ方を教える調理施設」を常設し、「加工品づくり体験」を通じ、広く市民に、新鮮で美味しい釧路産の魚に興味や関心を持ってもらうよう食育や地産地消の取り組みを広げる。

	4. 「釧路市地域雇用創造協議会」が進める、地域資源を活用した商品開発事業に参画し、スケトウダラ専用の加工機械を導入し、消費者のニーズに応じた新たな加工品の試作に取り組み、魚を獲るだけの漁業から加工・販売も一貫して取組むことで消費拡大や付加価値の向上を図る。 5. 将来構想として平成22年に釧路市が策定した「釧路港漁港区（副港）の将来ビジョン」では、漁業の生産活動が観光資源として注目されており、魚の陸揚げや競りの見学などによる「水産観光」という新分野にも参画を目指し、構想実現に向けて釧路市と連携し地域全体の活性化に貢献していく。
活用する支援措置等	・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 浜の活力再生・成長促進交付金（国）

3 年 目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比） 9.8%

漁業収入向上の ための取組	1. 釧路産スケトウダラの高品質化を図るべく、海水電解殺菌装置による、船体、漁網、魚箱等を清浄し衛生管理の向上を図る。 2. 漁獲物の品質の向上を図るとともに、漁獲後の酸化を防ぎ長期保存が可能となるシャーベット状の海水氷（シルク氷）を活用した鮮度保持対策を実施する。 3. 低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。 4. 全船規格統一を定めた韓国輸出向け『釧路沖底産スケトウダラ生鮮魚発泡』の輸出強化。 5. 所属船のうち2隻のオッタートロール漁船は、プール制の導入や共同操業による漁場の分散操業を実施しており、資源量に応じた計画的な操業により、大漁時の魚価の値崩れを防ぐとともに、水産資源を持続的に利用できる体制を継続する。
漁業コスト削減 のための取組	1. 沖底船9隻は、漁場までの減速航行やこれまで各船で行っていた漁場探索、データ収集、分析を共同で行うこととする。 2. 漁業者は、船体メンテナンスなどを行う造船所・鉄工所を一社に集約し、機関故障などに備えた機関予備品を共同購入するなど船体維持費の削減にも努めている。 3. 中間検査・定期検査の指定期間の分散化計画を北海道運輸局釧路運輸支局に提出することにより、経費の支出を平準化し経営の安定化に取り組んでいる。 3期目も、2期目の取り組みを継続し経費削減の取り組みを行う。
漁村の活性化の ための取組	1. 水揚げの主体となるスケトウダラを、使用した料理を飲食店の協力のもと、利用者へ提供するほか、釧路市と連携し加工品の試作にも取り組む。 2. 各種催事への参加や都市部での販売促進を行うほか、惣菜魚やスケトウダラの試食・調理方法をPRし、スケトウダラ、タラなど地域資源を有効活用した消費拡大に取り組む。

	3. 平成28年度に整備した漁協加工場にて「魚のさばき方や食べ方を教える調理施設」を常設し、「加工品づくり体験」を通じ、広く市民に、新鮮で美味しい釧路産の魚に興味や関心を持ってもらうよう食育や地産地消の取組みを広げる。 4. 「釧路市地域雇用創造協議会」が進める、地域資源を活用した商品開発事業に参画し、スケトウダラ専用の加工機械を導入し、消費者のニーズに応じた新たな加工品の試作に取り組み、魚を獲るだけの漁業から加工・販売も一貫して取組むことで消費拡大や付加価値の向上を図る。 5. 将来構想として平成22年に釧路市が策定した「釧路港漁港区（副港）の将来ビジョン」では、漁業の生産活動が観光資源として注目されており、魚の陸揚げや競りの見学などによる「水産観光」という新分野にも参画を目指し、構想実現に向けて釧路市と連携し地域全体の活性化に貢献していく。
活用する支援措置等	・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 浜の活力再生・成長促進交付金（国）

4 年 目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比） 13.0%

漁業収入向上の ための取組	1. 釧路産スケトウダラの高品質化を図るべく、海水電解殺菌装置による、船体、漁網、魚箱等を清浄し衛生管理の向上を図る。 2. 漁獲物の品質の向上を図るとともに、漁獲後の酸化を防ぎ長期保存が可能となるシャーベット状の海水氷（シルク氷）を活用した鮮度保持対策を実施する。 3. 低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。 4. 全船規格統一を定めた韓国輸出向け『釧路沖底産スケトウダラ生鮮魚発泡』の輸出強化。 5. 所属船のうち2隻のオッタートロール漁船は、プール制の導入や共同操業による漁場の分散操業を実施しており、資源量に応じた計画的な操業により、大漁時の魚価の値崩れを防ぐとともに、水産資源を持続的に利用できる体制を継続する。
漁業コスト削減 のための取組	1. 沖底船9隻は、漁場までの減速航行やこれまで各船で行っていた漁場探索、データ収集、分析を共同で行うこととする。 2. 漁業者は、船体メンテナンスなどを行う造船所・鉄工所を一社に集約し、機関故障などに備えた機関予備品を共同購入するなど船体維持費の削減にも努めている。 3. 中間検査・定期検査の指定期間の分散化計画を北海道運輸局釧路運輸支局に提出することにより、経費の支出を平準化し経営の安定化に取り組んでいる。 3期目も、2期目の取り組みを継続し経費削減の取り組みを行う。
漁村の活性化の ための取組	1. 水揚げの主体となるスケトウダラを、使用した料理を飲食店の協力のもと、利用者へ提供するほか、釧路市と連携し加工品の試作にも取り組む。 2. 各種催事への参加や都市部での販売促進を行うほか、惣菜魚やスケトウダラの試食・調理方法をPRし、スケトウダラ、タラなど地域資源を有効活用した消費拡大に取り組む。

	3.平成28年度に整備した漁協加工場にて「魚のさばき方や食べ方を教える調理施設」を常設し、「加工品づくり体験」を通じ、広く市民に、新鮮で美味しい釧路産の魚に興味や関心を持ってもらうよう食育や地産地消の取組みを広げる。 4.「釧路市地域雇用創造協議会」が進める、地域資源を活用した商品開発事業に参画し、スケトウダラ専用の加工機械を導入し、消費者のニーズに応じた新たな加工品の試作に取り組み、魚を獲るだけの漁業から加工・販売も一貫して取組むことで消費拡大や付加価値の向上を図る。 5.将来構想として平成22年に釧路市が策定した「釧路港漁港区（副港）の将来ビジョン」では、漁業の生産活動が観光資源として注目されており、魚の陸揚げや競りの見学などによる「水産観光」という新分野にも参画を目指し、構想実現に向けて釧路市と連携し地域全体の活性化に貢献していく。
活用する支援措置等	・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

5 年 目（令和 1 0 年 度） 所得向上率（基準年比） 1 6 . 3 %

漁業収入向上の ための取組	1. 釧路産スケトウダラの高品質化を図るべく、海水電解殺菌装置による、船体、漁網、魚箱等を清浄し衛生管理の向上を図る。 2. 漁獲物の品質の向上を図るとともに、漁獲後の酸化を防ぎ長期保存が可能となるシャーベット状の海水氷（シルク氷）を活用した鮮度保持対策を実施する。 3. 低・未利用資源について、加工品などの開発を行い付加価値向上に取り組む。 4. 全船規格統一を定めた韓国輸出向け『釧路沖底産スケトウダラ生鮮魚発泡』の輸出強化。 5. 所属船のうち2隻のオッタートロール漁船は、プール制の導入や共同操業による漁場の分散操業を実施しており、資源量に応じた計画的な操業により、大漁時の魚価の値崩れを防ぐとともに、水産資源を持続的に利用できる体制を継続する。
漁業コスト削減 のための取組	1. 沖底船9隻は、漁場までの減速航行やこれまで各船で行っていた漁場探索、データ収集、分析を共同で行うこととする。 2. 漁業者は、船体メンテナンスなどを行う造船所・鉄工所を一社に集約し、機関故障などに備えた機関予備品を共同購入するなど船体維持費の削減にも努めている。 3. 中間検査・定期検査の指定期間の分散化計画を北海道運輸局釧路運輸支局に提出することにより、経費の支出を平準化し経営の安定化に取り組んでいる。 3期目も、2期目の取り組みを継続し経費削減の取り組みを行う。
漁村の活性化の ための取組	1. 水揚げの主体となるスケトウダラを、使用した料理を飲食店の協力のもと、利用者へ提供するほか、釧路市と連携し加工品の試作にも取り組む。 2. 各種催事への参加や都市部での販売促進を行うほか、惣菜魚やスケトウダラの試食・調理方法をPRし、スケトウダラ、タラなど地域資源を有効活用した消費拡大に取り組む。

	3. 平成28年度に整備した漁協加工場にて「魚のさばき方や食べ方を教える調理施設」を常設し、「加工品づくり体験」を通じ、広く市民に、新鮮で美味しい釧路産の魚に興味や関心を持ってもらうよう食育や地産地消の取組みを広げる。 4. 「釧路市地域雇用創造協議会」が進める、地域資源を活用した商品開発事業に参画し、スケトウダラ専用の加工機械を導入し、消費者のニーズに応じた新たな加工品の試作に取り組み、魚を獲るだけの漁業から加工・販売も一貫して取組むことで消費拡大や付加価値の向上を図る。 5. 将来構想として平成22年に釧路市が策定した「釧路港漁港区（副港）の将来ビジョン」では、漁業の生産活動が観光資源として注目されており、魚の陸揚げや競りの見学などによる「水産観光」という新分野にも参画を目指し、構想実現に向けて釧路市と連携し地域全体の活性化に貢献していく。
活用する支援措置等	・ 漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・ 浜の活力再生・成長促進交付金（国）

(5) 関係機関との連携

・取組みの効果が十分に発揮されるよう、行政（北海道・釧路市）との連携を強固にして事業を推進するとともに、国の事業に関して北海道庁を通じて情報収集等を行い、円滑な推進を図る。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

・組合における、理事会(年5回以上)及び船主会(年3回程度)での上記取組み事項の確認又は進行状況を随時共有し情報を把握をするとともに、釧路沖底船で構成される漁撈長会(年3回)、船長会(年3回)、その他幹部会(年3回)を通じ、乗組員への徹底指導を行う事によって取組みに対する意識を高める。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--	--

(3) 所得目標以外の成果目標

韓国向けスケトウダラの 出荷金額の増加	基準年	平成30年度： 470,000千円
	目標年	令和10年度： 500,000千円
沖底船乗組員数(定員数) の維持及び新規漁業就業 者の雇用・育成	基準年	平成30年度～ 令和4年度 ・オッタートロール船 乗組員数(定員数)1隻：13名

		・かけまわし船 乗組員数(定員数) 1 隻：1 5 名
	目標年	・オッタートロール船 乗組員数(定員数) 1 隻：1 3 名 令和6年度～ 令和10年度 ・かけまわし船 乗組員数(定員数) 1 隻：1 5 名

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

○韓国向けスケトウダラの出荷金額の増加○

- ・目標の算出に当たっては、第2期で所得目標以外の成果目標としていた韓国輸出向け鮮魚発泡の出荷数量及び金額を平成30年に達成したが、その後の4年間については、コロナ禍の影響による、輸出環境の悪化により、年々輸出数量は減少したが平均単価は約1.8倍に倍増した。
- ・令和4年の平均単価を維持し5年計画で50,000個の増加を目指す。
(10,000個/1年)

直近5年間	出荷数量	平均単価	出荷金額
2018年	2,080 t (159千個)	約2,956円/個	470,042千円
2019年	1,183 t (91千個)	約2,989円/個	271,985千円
2020年	988 t (76千個)	約3,654円/個	277,730千円
2021年	793 t (61千個)	約4,649円/個	283,592千円
2022年	689 t (53千個)	約5,365円/個	284,353千円

○沖底船定員数の維持及び新規漁業就業者の雇用・育成○

- ・乗組員の退職に伴う欠員補充を速やかに行う為、船員求人情報ネットワークを活用し、求人活動に取り組むとともに、船員未経験者についても、育成期間を経て現場で力を発揮している。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築事業 (国)	燃料高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図る。
浜の活力再生 ・成長促進 交付金 (国)	競争力強化のため必要となる施設の整備、地方卸売市場の改良又は整備を行い、衛生管理の向上や蓄養等の関連施設を活用し、作業効率、水産物単価向上を図る。